

かわじまウオッチング

第 2 号
平成26年12月27日



かわじま地域探訪倶楽部

新井孝政 急式米子
鈴木宗一 花木登茂子
榎本角雄 山田芳子



川島町の四季 —その1 秋から冬へ—

川島町は、四方を川に囲まれた町で、農に生きる田舎の景色の四季それぞれに出会えます。

四季の彩り

◆初秋

★彼岸花の群生地…彼岸花と言えば日高市の中着田があまりにも有名ですが、川島町でも越辺川にかかる天神橋付近の堤防には、秋分の日前後に自生の彼岸花が真っ赤なじゅうたんを敷き詰めたように咲き乱れ壮観です。かわべえメールでも配信されました。白金工業の付近の桜の木の下の木漏れ日の彼岸花も見逃せません。釘無橋の上流にも堤防いっぱい咲き誇ります。

★コスモス…休耕田などを利用し、景観作物として植えられたコスモスが彩り豊かに咲き始めます。この花は花期も長く、風に揺れている楚々としたさまは何とも言えない風情があって私の好きな花でもあります。

◆実りの秋

★広々とした田園に色づいた稲穂が風に揺れ、収穫の秋を迎えます。嬉しいことに今年は豊作と聞いております。

★もくせい…町内の小・中学校の体育祭の季節になると町の木でもある「もくせい」の花が金色の花をいっぱいつけ芳香を放ちます。

★紅葉葉風^{もみじぼふう}…けやき保育園から平成の森公園にかけての北側の道路沿いに植えられている紅葉葉風の真っ赤に染まった紅葉が見られますが、今の時期（12月）は葉がすっかり落ち、見上げるとたくさん実が枝についていました。葉はもみじの葉を大きくしたようで実は丸くとげとげがあり、小さな穴がたくさんあいており、その穴にきれいな布を詰め込んで装飾用に用いられています。

◆冬

★白鳥の飛来地…越辺川にかかる天神橋と八幡橋の間あたりの河川敷には11月下旬頃、北の大地シベリアからの長旅をへて冬の美しい使者白鳥が飛来し、ここで冬を越し3月頃また遠いシベリアへ戻って行きます。このあたりが越冬地の最南端と言われているそうです。2003年6羽から始まり、今では130羽前後がやってきて川で泳いだり川辺で休んだり、近くの田んぼへえさを探しに飛び立ったりと、白く美しい姿を見せています。詳しい事は三井精機さんのホームページ「白鳥だより」に毎日の動向が載っていますので参考にして見てください。当初は白鳥を守る会の皆さんにより餌付けもされていましたが、他所で野鳥のフンによる鳥インフルエンザが発生したため、餌付けは中止され現在に至っています。川辺では写真を撮ろうと朝早くから大勢のカメラマンがシャッターチャンスをおねらっています。



カモと遊ぶ白鳥



紅葉葉風の葉と実

山田 芳子 記

平成の森公園ウォーキング



休日、平成の森公園は、朝早くから、ウォーキング、ジョギング、ノルディックウォーキング等、様々な形で、多くの方が運動に挑戦しています。コースも交通の妨げもなく、安心して運動できます。私もウォーキング始めました、体力に不安があったので、マイペースでやりました。早歩きする時、前かがみの姿勢になり腰痛が起きました。また、休憩のときはグラウンドで、サッカーの試合を見て、楽しんでいます。

農業商工祭について

平成の森公園に於いて、地元の農産物、加工品等、展示即売、又、川島音頭の踊りや、ダンス、そして、マスコットキャラクター「かわべえ」も登場します。子供から大人まで楽しむことができます。また、そばは人気があり行列をつくっています。私も頂きました、うまかったです。包丁を研いでもらいました。切れ味が凄く良かったです。

※ ミニ知識コーナー

ウォーキング姿勢の確認と第一歩

1. つま先を 60 度を開いてかかとを寄せる。
2. 腕は水平に手首を内側に捻り今度は手の平を上到手首を外側に捻る。
3. 頭を軽く後ろにそして前に、顎を引く、手を降ろす。
4. 両足をそろえて右足を後ろに引き、右足から始めの一步で、スタートする。

荒川太郎右衛門自然再生工事



発注者。国土交通省、関東地方整備局、荒川上流河川事務所、工期、平成 27 年 1 月 30 日まで、太郎右衛門橋 1.5 キロ下流にて、自然再生工事が行なわれています。

事業の概要は、この辺りの河川敷に、約 70 年前まで蛇行して流れていた荒川の、旧流路が湿地環境として現在も残っており、多くの生物の生育・生息場所となっています。一方、河床低下や、洪水時の土砂の堆積などによる乾燥化の進行により、旧流路の湿地環境は減少しています。その為、多様な生物が生息・生育できる良好な自然環境を再生することを目的とし、学識者やNPO、地域住民、関係行政機関が参画している「荒川太郎右衛門地区自然再生協議会」で、自然再生事業に取り組んでいます。当該工事は、自然再生のための池の堀削を行なう工事です。また堀削の際、土の中に埋まってしまう、瓦礫やゴミを分別機において取り除きます。尚、堤外出丸グラウンド南付近も自然再生の池の堀削工事を行なっています。



わが町の昔の人の願いを探してみましょ (中山地区)

道祖神や、馬頭観世音、六地藏、庚申塔など町内に残されているたくさんの民族文化財の一部をご紹介します。



● 「川島町お散歩 MAP」を参考に歩いてみました。

● 道祖神 (八幡神社)



● 「中山営址碑」(中山小学校)
江戸時代、秋元氏の陣屋が置かれていました。



● 「庚申塔」

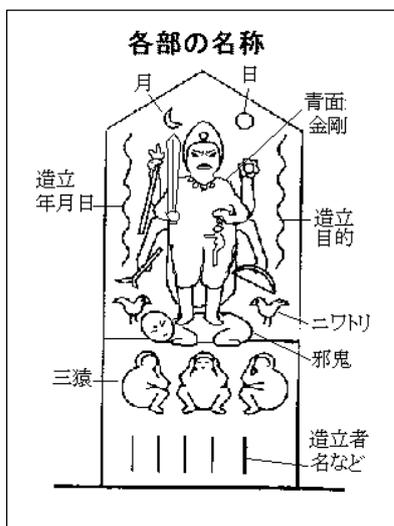
● 「道祖神」



● 「庚申塔」
(吹塚)



● 「馬頭観世音」(吹塚)



庚申塔は、道の辻や寺社や墓地の入り口によく置かれ、延命長寿にご利益があるといわれます。その中で主流となっているのが、しょうめんこんごうくさう青面金剛刻像です。その他、日月や猿、鶏、邪鬼等が配されています。

● 村境で、村を守り病魔から村民を守ってきた塞ノ神です。



●延命寺の六地藏（上廊）



●地蔵菩薩（上）
庚申塚（左）
（白井沼・墓地）

役場近くにも行ってみました。

●地域の民間信仰の所産とも言えるこれらの石仏に目を向け、先人の残した文書を調べていくと、昔の人々の生活や信仰を少しずつ、理解できるのではないのでしょうか。

これらの石塔、石仏、石神などは、地域の人々の信仰の対象として、人々が日常行き来する道路端や道路の辻にあって、大切に保存され、語り継がれてきています。延命・子育て・いぼとり・歯痛止め・夜泣き・交通安全・耕地整理地蔵など、いろいろな名の付いた地蔵があることは皆さんご存知のことと思います。

そこからも、当時の人々の素朴な願いや考え方を想像したりすることもできるのではないのでしょうか。私たちが気ぜわしい毎日ではありますが、一時でも心穏やかや時間が持てるように、今日の生活に、昔の人々の知恵や工夫を生かしていくべきではないかと思えます。

●広辞苑に、「障（さえ）の神・塞の神・道祖神」は、邪霊の侵入を防ぐ神、行路の障の安全を守る神。村境などに置かれ、近世にはその形から良縁・出産・夫婦円満の神になったと、あります。

ブリタニカ百科事典には、「…神来臨の場所として、伝説と結びついた樹木や岩石があり、七夕の短冊竹や虫送りの人形を送り出すところとなり、また流行病の時には道切の注連縄を張ったりする。小正月には、火祭りをここで行う場合もある。神祠、神体としては「塞の神」「道祖神」などの字を刻んだ石を建てたものが多いが、山梨県には、丸石を祀ったものもあり、人の姿を刻んだ石や男根形の石を立てるものも少なくない。行路や旅の神と考える地方では、草鞋を供え、または子供の神としてよだれ掛けを下げたり、耳の神として、穴あきの石を供えたりするところもある。…」と、あります。

●庚申塔（庚申塚ともいう）は、中国より伝来した道教に由来する庚申信仰に基づいてたてられた石塔とのことです。

●庚申信仰について

人間の身体の中には三尸（さんし）という虫がいて60日毎に巡ってくる庚申（かのえさる）の日に、人々が寝静まった夜、その虫が体内から出てきて天帝にその人の悪行を報告し、怒った天帝はその人を早死にさせてしまうのだそうです。ですから、庚申の日には寝ないで夜通し起きていて、三尸が体内から抜け出さないようにするのだそうです。これを「庚申待」といいます。

最初のころは庚申待の夜は厳かに過ごすのが習いだったのですが、平安時代から2か月に一度の楽しい宴会になってしまったそうです。娯楽の乏しかった時代ですから、全国に一気に広がってしまったわけです。60年に一度、庚申の年に更新塔を建立することを原則としました。

庚申塔には、「庚申」の「申」から猿（特に三匹の猿）をえがいたもの、青面金剛の像を描いたもの、神道の影響を受け、猿田彦の命を描いたもの、単に「庚申塔」と字で書かれたものなどがあります。

庚申塔は、集落の外れに道祖神など他の石神と一緒に置かれている例が多く、その結果、「塞ノ神」として村の辻の守り神といった道祖神と同じ役割を担わされてしまったようです。

●記事作成では、川島町立図書館所蔵の「川島の石仏」も、参考にさせていただきました。

鈴木 宗一 記

鳥羽井沼自然公園のご案内

川島町鳥羽井地区にある鳥羽井沼自然公園を紹介します。鳥羽井沼自然公園には釣り場としての沼が2つあり、また、九頭竜大権現が祀られ、川島民具展示館もあります。東側にはさいたま武蔵丘陵森林公園サイクリングロードが走っています。

鳥羽井沼

江戸時代に市野川の度重なる洪水で出来た沼です。現在はヘラブナやコイの釣り場として町外から大勢の太公望で賑わっています。駐車場には大宮、所沢、川越ナンバーの車を多く見かけます。以前は投網打ち大会が行われていましたが現在は中止しています。冬の風物詩として賑わっていたのが懐かしい思い出です。



くずりゅうだいごんげん いちもくれんだいじんぐう 九頭竜大権現と一目連大神宮

水防の神様である九頭竜大権現は享保2年の決壊に長野県戸隠神社から^{かんじょう}勧請しました。隣には水難除けの守護神である一目連大神宮が祀られています。



川島民具展示館

水車、木船など、昔の生活民具、農具が展示されています。拝観は無料ですが、開館は休日のみとなっています。



隣接していちじく園があり直売されています。また、めだかの学校という小屋(養殖?)があります。



新井 孝政 記

” まちのイベントにこだわりの そば処を出店してボランティア活動 “

川島町では、毎年最大イベントが3回あります。5月5日の「川島町ちびっこフェスティバル」、11月3日の「川島町町民ふれあいフェスティバル」、11月23日の「川島町農業商工祭」、これらのイベントが実施される日には、多くの方々が出かけてくれて、それはそれは大盛り上がりになります。ここにそば処を出店して、大勢の方々に飲食していただき、収益金を町社会福祉協議会へ寄付しています。

1.)そば打ちの概要

そば打ちは、町の職員有志により、平成14年6月9日に、県職員「中山技監」が川島町に向われ、立ち上げたものです。当初は、誰もが経験なく、それに加えて希望者が殺到し、マイ道具もなく、教示するのには大変だった事と思われます。しかしながら2回、3回と練習を重ねるごとにマイ道具も揃い、中山講師も余裕も出て、麵つゆ、蕎麦がき、等幅広い教示をしていただきました。職員の上達も早く、平成15年12月19日に遠山氏により「そば打ち倶楽部」として発足、当時は40名も、しかし現在は30名に、大部分退職者で維持していて、職員はその1割で、後継者育成に力を入れています。

2.)こだわりそばとは

そば作りは、何と言ってもそば粉のこだわりです。美味しいそばは、まず原材料が良く、製粉が良いことと、そば打ちの良い技術です。さらに微妙なゆでる感、最後に食べるタイミング、すべてが合致することで、美味しいそばとなります。そば粉については、北海道沼田町より、地元で研究に研究を重ねて作付けし、川島町でイベントがあることを知ると、製粉は真近に行い、そして送られて来ます。1回につき30kg購入し、当日ベテラン6、7人で打ちます。また、ゆでるのも2人のベテランで、この上ない美味しい喉越しで舌鼓です。お客様も食感と喉越しの良さは格別と大好評、江戸風二八そばそしてそばを打つ人で、こんなに美味しくて素晴らしいそばが出来るのです。一度食べてこの美味しいそばを味わってみては如何ですか？



3.)そば打ちの活動状況

「そば倶楽部」では、そば打ちを練習したいと言う方々に、体験そば打ちを実施しています。シニア学園、地区公民館、地域、いきいきサロン、介護者リフレッシュ、シニア世代、等々数多くの依頼を受注しています。また、「のびっこ」には、平成18年から年1回昼食時に「手打ちそば」を提供しています。今年で連続9年になり、また平成16年から町社会福祉協議会に寄付し平成25年5月で100万円達成し町より感謝状が交付されました。「継続は力なり」ですね。

急式 米子 記

川の今と昔



近くの横塚川の護岸工事が数年前に終わり、両岸がきれいに整備されました。今後は、地域の人たちで、川をきれいにして行ってほしいと行政からの要望もありましたので、ごみゼロ活動の日には、川の周辺のごみを拾ったり、川の中に入って清掃をしています。

私が小学生(60年位まえ)の頃の川は、きれいな水が流れ、橋の南側の川底は砂地になっていて、おおきいしじみが取れたことと、川底に粗朶(そだ)を束ねたものが敷き詰めてあったことを覚えています。川魚も多くドジョウやフナときには、コイを見ることがもありました。当時はまだ、雑排水が流れ込むこともまれで、きれいな状態が保たれたのでしでしょう。冬は、氷が張りこどもが載っても割れないほどの厚みがありました。



月日が経つにつれ両岸が崩れる所もあり、洪水の時など、樋管の扉が閉まり、上流からの水の量で川幅いっぱいになり、橋の上まで濁流が来ます。護岸工事が終了し、川幅も広めになった所には、カワセミやセグロセキレイの姿をみることができます。

川の側の家では草花や果樹を植えて、景観を保っています。広い道路もできましたので何れは、遊歩道として、散歩やウォーキングを楽しめる場所になっていったらいいと思います。その時は、川の近くに植えられた果樹や草花を楽しんでいただけたらと思います。



花木 登茂子 記